

2022 年 12 月 7 日

報道関係各位

株式会社 O K B 総研

「O K B 景況指数」2022 年 12 月期調査報告

O K B グループのシンクタンク（株）O K B 総研（大垣市郭町 2-25 社長 青木 義実）は、3 カ月ごとに「O K B 景況指数」を公表しております。このたび、2022 年 12 月期調査報告を取りまとめたしますのでご案内します。

調査結果要旨

景気の水準	景気全般は前回からやや上昇。 生産活動や設備投資は持ち直しが続く一方、原材料高や円安が企業収益を圧迫。旅行や飲食は回復基調なるも、相次ぐ値上げに伴い買い控えの動きが出ており、個人消費は軟調。
景気の方角	3 カ月後の景気は悪化を見込む。企業収益は原材料高や円安により厳しい状況が続く。個人消費は物価高が続くなか、新型コロナ第 8 波の懸念もあり一層冷え込む見通し。
新型コロナの影響	新型コロナによる地域経済への影響は、「ややある」が 76.7%と最も多かった。前回調査（2022 年 9 月期）から新型コロナの影響度は低下。3 カ月後の影響度は横ばいの見通し。

O K B 景況指数 とは・・・

O K B 大垣共立銀行の支店長を対象に 3 カ月ごとに調査を実施

東海 3 県にある **O K B 大垣共立銀行の支店長を調査対象**としている点が大きな特徴。銀行の支店長は、地域の企業活動や個人の景況感を総合的に捉えている。幅広い視点から地域の景況感を把握するには、銀行支店長への調査は有効な方法となる。

県域より狭い地域の景気の水準と方向を集計

「名古屋」、「西尾張」、「西濃」など、**県域より狭い地域の景気水準を表す指標**を公表している。
（注）東海 3 県の当該県域全体を対象としていない（O K B 大垣共立銀行の支店所在地エリアが対象）。

資料配布場所：名古屋金融記者クラブ、大垣市政経済記者クラブ

【本件に関する問合せ先：O K B 総研 調査部 中澤・梅木 TEL: 0584-74-2615 FAX:0584-74-2688】

OKB景況指数（2022年12月期調査報告）

調査概要

- (1) 調査対象 東海3県にあるOKB大垣共立銀行の支店長（100支店）
 (2) 調査内容 調査時点の景気水準および3ヵ月後の景気の方
 (3) 調査方法 2022年11月上旬に調査票を配付し、11月下旬までに回収

調査結果

- 景気的水準：** 景気全般は前回からやや上昇。企業活動は持ち直しが続く一方、原材料高や円安が企業収益を圧迫。相次ぐ値上げに伴い買い控えの動きが出ており、個人消費は軟調。
- 景気の方** 3ヵ月後の景気は悪化を見込む。企業収益は原材料高や円安により厳しい状況が続く。個人消費は物価高が続くなか、新型コロナ第8波の懸念もあり一層冷え込む見通し。

	景気的水準(2022年12月期)	景気の方(3ヵ月後見通し)
全地域	・景気全般は▲23.9（前回比+1.6）と前回から小幅に上昇。	・▲13.2と「悪化」超
	（支店長コメント） 新型コロナの影響からの回復の兆しあるも、原材料費高騰による企業収益圧迫や資材不足により景気全般は良くも悪くもない。相次ぐ値上げが家計を圧迫しており、消費マインドは盛り上がり欠ける。旅行・外食などのサービス消費は回復傾向にあるが、第8波による鈍化・伸び悩みが懸念される。	
県別	・愛知県▲26.5（前回比+3.0）、岐阜県▲20.1（前回比+1.7）と、両県ともに上昇。	・愛知県は▲9.1と「悪化」超 ・岐阜県は▲14.9と「悪化」超
	（支店長コメント） ・愛知県では、自動車減産の影響を受け生産活動は回復しつつあるが、企業の体力を削いでいる。挽回生産への期待はあるも、半導体等の資材不足は継続しており、先行きの不安感が残る。 ・岐阜県では、コロナの影響は徐々に軽減されつつあり、売上高は相応に回復しているものの、原材料等の高騰や円安等が収益圧迫につながり、減益となる企業が多い。	
地域別	・飛騨・郡上、東尾張など3地域で前回調査から上昇した一方、桑名・四日市、東濃・可茂など4地域で低下。飛騨・郡上のみプラス圏となった。	・「良化」超 三河、飛騨・郡上 ・「悪化」超 名古屋、西尾張、岐阜、西濃、東濃・可茂、桑名・四日市
	（支店長コメント） 【西尾張地域】 半導体不足や原材料価格・光熱費高騰の影響で、各企業の業績は減益推移。自動車部品製造は利益面で苦戦を強いられており、輸入企業も急激な円安への対応に苦心している。一方、工業用機械製造は円安を追い風に過去最高益を計上するなど、企業業績は二極化が進む。 【飛騨・郡上地域】 インバウンド解禁以降、外国人観光客が急増。全国旅行支援の追い風もあり、ホテルの稼働率はコロナ前活況時の8割程度まで回復している。建設や土木は安定した公共工事に支えられ堅調さがうかがえるも、今後の予算圧縮が懸念される。	
項目別	・「全地域」を項目別に見ると、「個人消費」と「企業収益」を除く項目で前回から上昇。	・「増加」超 「生産活動」、「設備投資」、「資金需要」 ・「減少」超 「個人消費」、「企業収益」 ・「不足」超 「雇用」
	（支店長コメント） 「個人消費」： 旅行や飲食関連の消費の戻りは顕著。各種商品や光熱費の値上がり続き、生活防衛色が強まっている。 「生産活動」： 納期や工期に遅れはあるも生産活動自体は滞っておらず、悪化しているとは言いえない。足元ではコスト増への対応が求められている。引き続き半導体不足による供給難が懸念され、不透明な情勢が続く。 「設備投資」： 補助金を利用した設備更新や新規投資は依然として需要が高い。一方、原材料等高騰により設備投資計画の延期や見直しを行う企業もあり。 「企業収益」： 大半の業種で売上は回復傾向にあるが、円安や原材料高に伴うコストアップを価格転嫁できず、収益力が低下している。 「雇用」： 業況が回復するにつれ、製造業を中心に人手が欲しいという企業が増加している。円安により外国人労働者の確保が難しくなっている。	

*（支店長コメント）は、該当エリア・項目の調査結果（水準・方向）と関連したコメントを掲載しています。

■指数および算出方法について

①「景気の水準」…調査時点における地域の景気の「水準」を示す指数。

②「景気の方角」…景気の「水準」に対して、景気の「方角」を示す指数。

各指数は、最高点が100、最低点が▲100となる。①「景気の水準」を表す「景気全般」の場合、右記の表の通り、各項目の回答にポイントを付与。支店の規模によるウェイト調整を行った上で、地域毎のポイント合計を当該地域の全支店長が「良い」と回答した場合のポイント合計で割り、100を乗じて算出する。

地域の景気水準を表す「景気全般」の場合

現在の景気に対して	付与ポイント
良い	2ポイント
どちらかといえば良い	1ポイント
良くも悪くもない	0ポイント
どちらかといえば悪い	▲1ポイント
悪い	▲2ポイント

図表1 OKB景況指数「景気の水準」(2022年12月期)

地域名	景気全般	個人消費	生産活動	設備投資	企業収益	資金需要	雇用
	今期水準 (前回比)	今期水準 (前回比)	今期水準 (前回比)	今期水準 (前回比)	今期水準 (前回比)	今期水準 (前回比)	今期水準 (前回比)
名古屋	▲32.5 (0.0) ⇨	▲17.5 (▲7.5) ⇨	▲27.5 (▲12.5) ⇨	▲5.0 (+7.5) ⇨	▲30.0 (▲2.5) ⇨	▲5.0 (▲12.5) ⇨	55.0 (+12.5) ⇨
東尾張	▲9.1 (+11.4) ⇨	▲15.9 (▲20.5) ⇨	4.5 (+25.0) ⇨	0.0 (▲11.4) ⇨	▲20.5 (+13.6) ⇨	9.1 (+6.8) ⇨	54.5 (+11.4) ⇨
西尾張	▲35.7 (▲3.6) ⇨	▲35.7 (▲14.3) ⇨	▲14.3 (0.0) ⇨	▲7.1 (▲7.1) ⇨	▲32.1 (+7.1) ⇨	▲17.9 (+7.1) ⇨	46.4 (0.0) ⇨
三河	▲40.0 (0.0) ⇨	▲30.0 (▲10.0) ⇨	▲20.0 (+10.0) ⇨	▲30.0 (0.0) ⇨	▲30.0 (+10.0) ⇨	▲10.0 (0.0) ⇨	20.0 (▲10.0) ⇨
岐阜	▲18.1 (+4.2) ⇨	▲12.5 (+1.4) ⇨	2.8 (+2.8) ⇨	1.4 (+16.7) ⇨	▲30.6 (0.0) ⇨	▲6.9 (+5.6) ⇨	61.1 (+6.9) ⇨
西濃	▲22.2 (▲3.7) ⇨	▲16.7 (+9.3) ⇨	▲13.0 (0.0) ⇨	7.4 (+7.4) ⇨	▲27.8 (0.0) ⇨	▲5.6 (+1.9) ⇨	61.1 (+1.9) ⇨
東濃・可茂	▲33.3 (▲5.6) ⇨	▲5.6 (+16.7) ⇨	▲5.6 (0.0) ⇨	▲22.2 (▲22.2) ⇨	▲33.3 (▲27.8) ⇨	▲16.7 (+16.7) ⇨	50.0 (▲5.6) ⇨
飛騨・郡上	16.7 (+33.3) ⇨	0.0 (+33.3) ⇨	▲16.7 (0.0) ⇨	▲16.7 (+16.7) ⇨	16.7 (+16.7) ⇨	▲16.7 (+50.0) ⇨	66.7 (▲16.7) ⇨
桑名・四日市	▲50.0 (▲16.7) ⇨	0.0 (0.0) ⇨	0.0 (+33.3) ⇨	16.7 (+33.3) ⇨	▲66.7 (▲16.7) ⇨	▲16.7 (▲33.3) ⇨	33.3 (+16.7) ⇨
愛知県(4地域)	▲26.5 (+3.0) ⇨	▲22.7 (▲13.6) ⇨	▲12.9 (+6.1) ⇨	▲7.6 (▲3.0) ⇨	▲27.3 (+6.8) ⇨	▲3.8 (0.0) ⇨	47.7 (+6.1) ⇨
岐阜県(4地域)	▲20.1 (+1.7) ⇨	▲11.5 (+9.2) ⇨	▲5.2 (+1.1) ⇨	▲2.9 (+5.7) ⇨	▲27.0 (▲4.6) ⇨	▲9.2 (+9.8) ⇨	59.2 (+1.1) ⇨
三重(1地域)	▲50.0 (▲16.7) ⇨	0.0 (0.0) ⇨	0.0 (+33.3) ⇨	16.7 (+33.3) ⇨	▲66.7 (▲16.7) ⇨	▲16.7 (▲33.3) ⇨	33.3 (+16.7) ⇨
全地域	▲23.9 (+1.6) ⇨	▲15.7 (▲0.6) ⇨	▲8.2 (+4.4) ⇨	▲4.1 (+3.1) ⇨	▲28.6 (▲0.3) ⇨	▲7.2 (+4.1) ⇨	53.5 (+3.8) ⇨

(※1) 各項目の「今期水準」は5つの選択肢にそれぞれポイントを付与したうえで算出。

例えば「景気全般」は、「良い」に2ポイント、「どちらかといえば良い」に1ポイント、「良くも悪くもない」に0ポイント、「どちらかといえば悪い」に▲1ポイント、「悪い」に▲2ポイント付与。

各回答に付与したポイント合計を、全回答が「良い」とした場合のポイント合計で除して算出。同じ市町に複数の店舗がある場合には、当該市町の中心的な店舗以外の店舗について、ポイントを通常の2分の1として算出。

(※2) ()内の前回比は、前回調査時の各指数からの変化幅を表記。

(※3) 雇用は「不足ー過剰」で算出。プラスは「不足超」、マイナスは「過剰超」を示す。

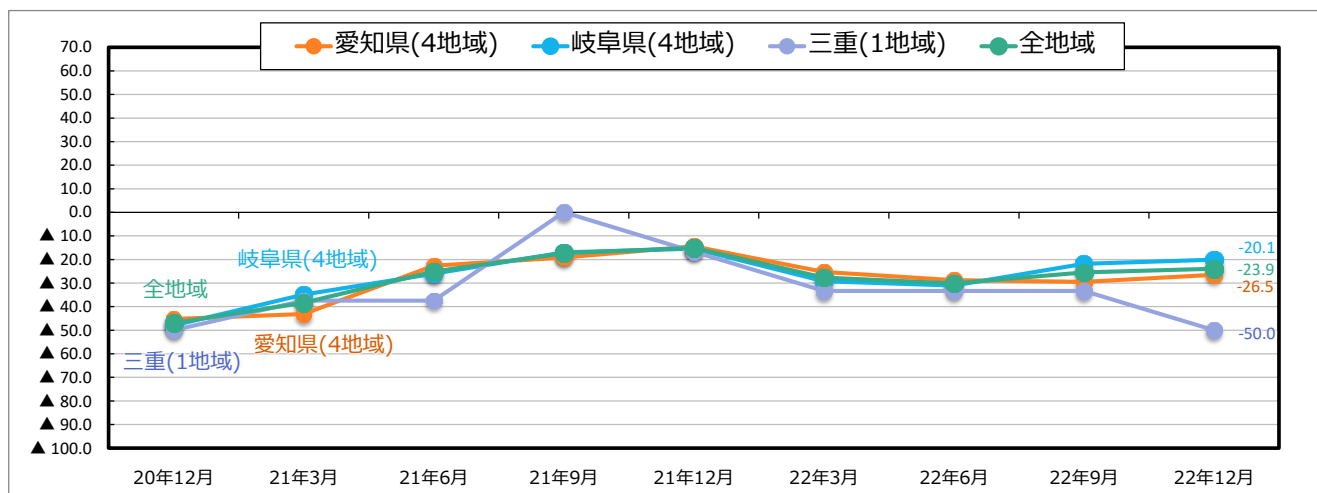
図表2 OKB景況指数「景気の方角(3ヵ月後見通し)」(2023年3月期見通し)

(単位: %ポイント)

地域名	景気全般	個人消費	生産活動	設備投資	企業収益	資金需要	雇用
	「良化」ー「悪化」	「増加」ー「減少」	「増加」ー「減少」	「増加」ー「減少」	「増加」ー「減少」	「増加」ー「減少」	「不足」ー「過剰」
名古屋	▲5.0 ⇨	▲15.0 ⇨	20.0 ⇨	15.0 ⇨	▲35.0 ⇨	15.0 ⇨	10.0 ⇨
東尾張	0.0 ⇨	▲4.5 ⇨	27.3 ⇨	13.6 ⇨	▲18.2 ⇨	45.5 ⇨	18.2 ⇨
西尾張	▲50.0 ⇨	▲7.1 ⇨	21.4 ⇨	0.0 ⇨	▲21.4 ⇨	▲7.1 ⇨	7.1 ⇨
三河	20.0 ⇨	▲20.0 ⇨	40.0 ⇨	20.0 ⇨	▲40.0 ⇨	0.0 ⇨	0.0 ⇨
岐阜	▲16.7 ⇨	▲22.2 ⇨	▲8.3 ⇨	▲8.3 ⇨	▲27.8 ⇨	16.7 ⇨	5.6 ⇨
西濃	▲18.5 ⇨	▲14.8 ⇨	7.4 ⇨	3.7 ⇨	▲48.1 ⇨	18.5 ⇨	11.1 ⇨
東濃・可茂	▲22.2 ⇨	0.0 ⇨	0.0 ⇨	0.0 ⇨	▲44.4 ⇨	11.1 ⇨	11.1 ⇨
飛騨・郡上	33.3 ⇨	33.3 ⇨	▲33.3 ⇨	33.3 ⇨	▲66.7 ⇨	33.3 ⇨	33.3 ⇨
桑名・四日市	▲33.3 ⇨	0.0 ⇨	0.0 ⇨	0.0 ⇨	▲33.3 ⇨	0.0 ⇨	0.0 ⇨
愛知県(4地域)	▲9.1 ⇨	▲10.6 ⇨	25.8 ⇨	12.1 ⇨	▲27.3 ⇨	18.2 ⇨	10.6 ⇨
岐阜県(4地域)	▲14.9 ⇨	▲11.5 ⇨	▲3.4 ⇨	0.0 ⇨	▲40.2 ⇨	17.2 ⇨	10.3 ⇨
三重(1地域)	▲33.3 ⇨	0.0 ⇨	0.0 ⇨	0.0 ⇨	▲33.3 ⇨	0.0 ⇨	0.0 ⇨
全地域	▲13.2 ⇨	▲10.7 ⇨	8.8 ⇨	5.0 ⇨	▲34.6 ⇨	17.0 ⇨	10.1 ⇨

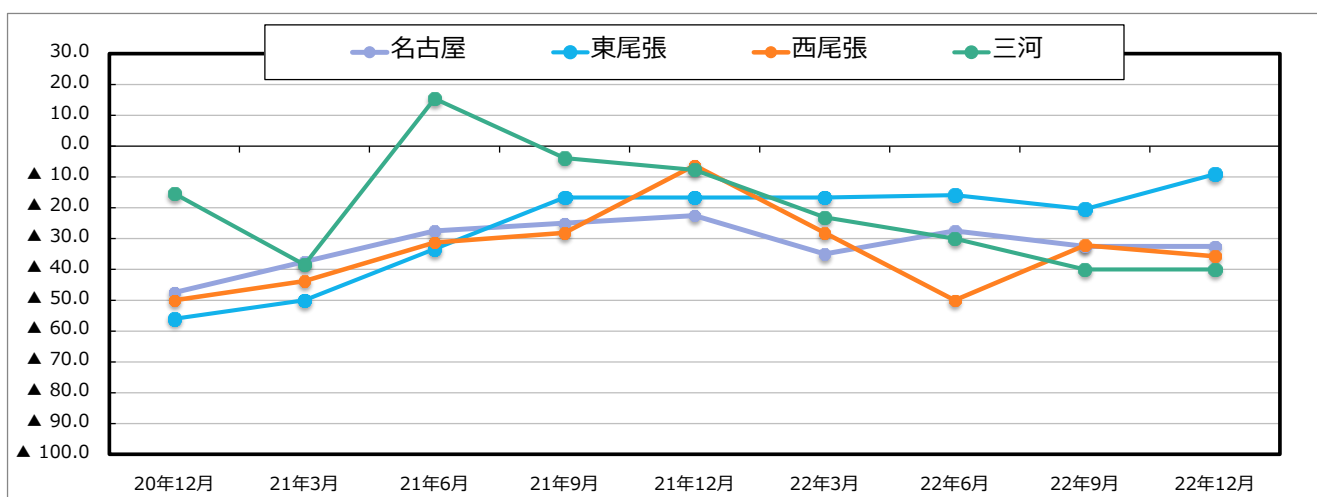
「景気の水準」の推移

■ 県別

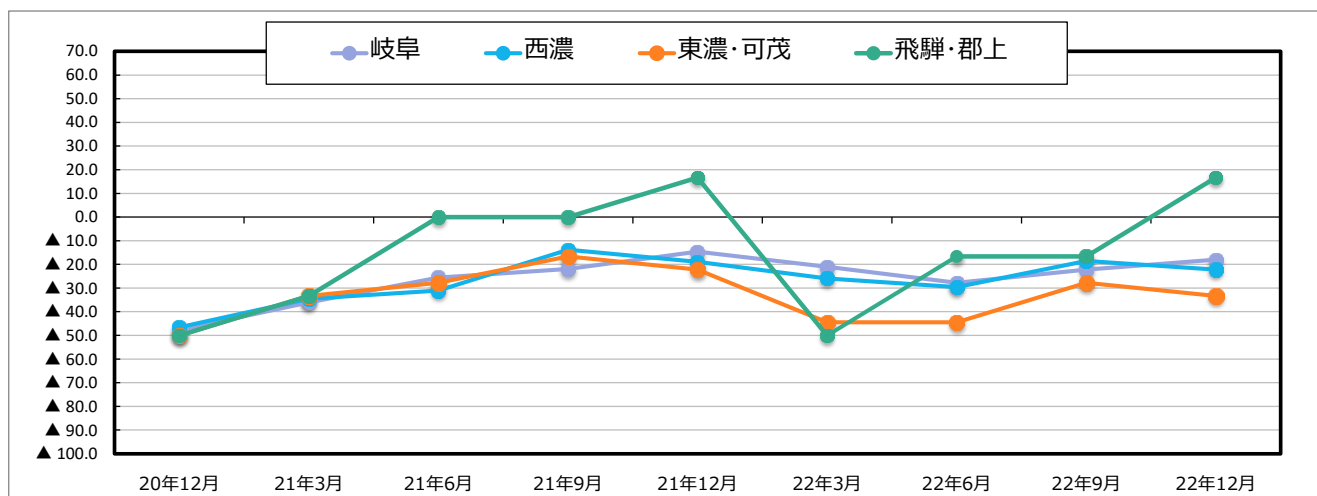


■ 地域別

① 愛知県内



② 岐阜県内



追加調査 1

「新型コロナウイルスによる地域経済への影響」

2020 年 6 月期調査より、景況調査の各項目への「新型コロナ感染症による影響」について尋ねている。地域の景況感に対する新型コロナウイルスの影響について見ていきたい。

影響度の指数化について

※指数は OKB 景況指数の算出同様、各項目の回答に表のポイントを付与、支店の規模によるウェイト調整を行ったうえで算出している。全支店長が「極めて大きい」と回答した場合は最高点の 100、全支店長が「影響はない」と回答した場合は最低点の 0 となる。

調査項目への新型コロナの影響の大きさ	付与ポイント
影響はない	0 ポイント
ややある	25 ポイント
かなりある	50 ポイント
非常に大きい	75 ポイント
極めて大きい	100 ポイント

（１）新型コロナによる地域経済への影響は、「ややある」が 76.7%と最も多かった。

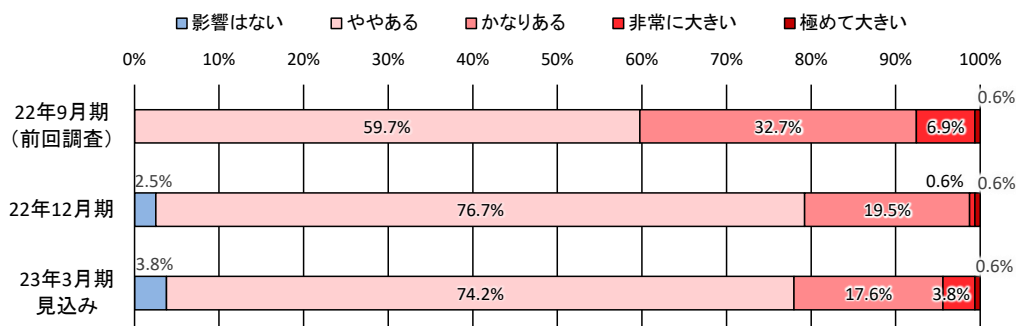
前回調査（2022 年 9 月期）から新型コロナの影響度は低下。3 カ月後の影響度は横ばいの見通し。

地域経済への「新型コロナによる影響」について尋ねたところ、「極めて大きい」が 0.6%、「非常に大きい」が 0.6%、「かなりある」が 19.5%、「ややある」が 76.7%、「影響はない」が 2.5%だった。前回（2022 年 9 月期）調査から、「非常に大きい」、「かなりある」が低下、「ややある」、「影響はない」が上昇した。

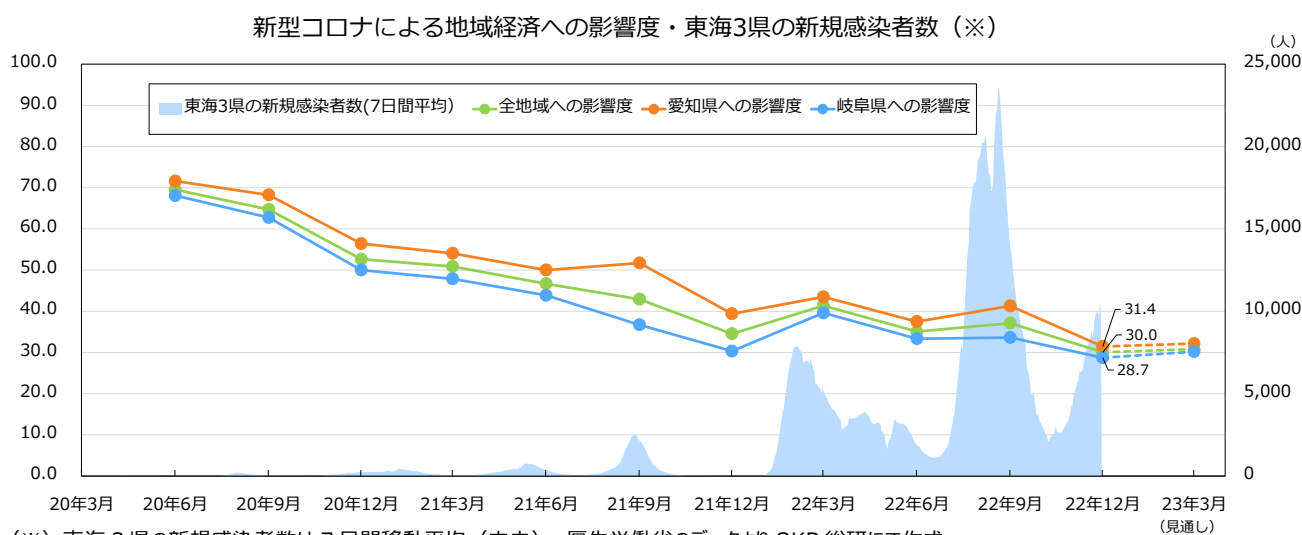
全地域への影響度（回答を指数化）は 30.0 と、前回から 7.1 ポイント低下した。県別に影響度を見ると、愛知県は 31.4 で 9.8 ポイント低下、岐阜県は 28.7 で 4.9 ポイント低下。足元の感染者数は拡大局面にあったが、両県とも影響度は、2020 年 6 月の調査開始以来、最も低い水準となった。

3 カ月後の見通しについて、愛知県・岐阜県とも地域経済への「新型コロナによる影響」はやや上昇する見込み。

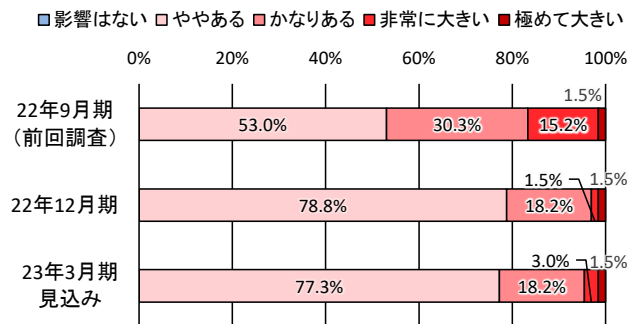
・新型コロナによる地域経済への影響について



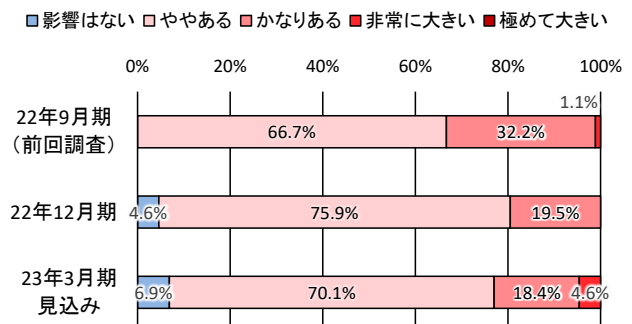
・新型コロナによる影響度の推移



・新型コロナの影響について（愛知県）



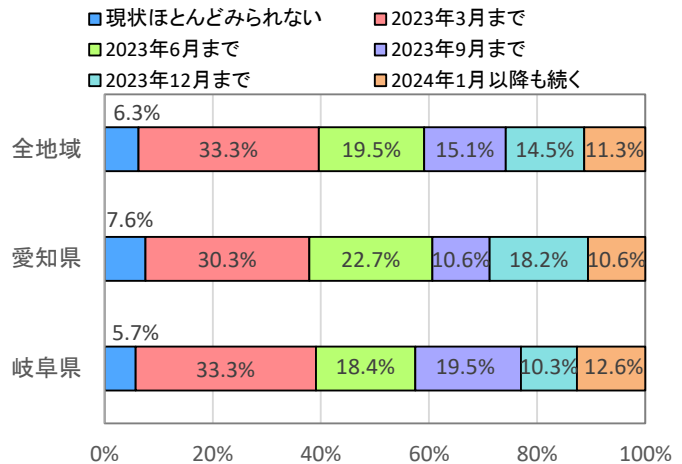
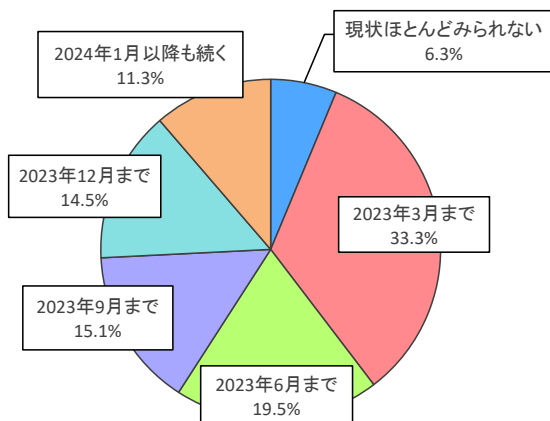
・新型コロナの影響について（岐阜県）



（２）地域経済への新型コロナの影響は、「2023 年 3 月まで」が 33.3%と最も多い。早期解消を見込む回答が多いが、一方で、2023 年後半以降も続くとする回答も合わせて 40.9%あった。

新型コロナによる地域の経済問題はどの程度続くともっているかを尋ねたところ、「2023 年 3 月まで」が 33.3%と最も多かった。「現状ほとんどみられない」が 6.3%と前回比 + 3.2 ポイントとなるなど、影響度の低下と合わせた形で、影響の早期解消を見込む回答が増えている。一方で、『2023 年後半以降も続く』との回答が 40.9%あるなど、足元で感染者数が拡大するなか、影響が長引くと予想する回答も一定数みられる。

・新型コロナによる地域の経済問題はどの程度続くともっているか



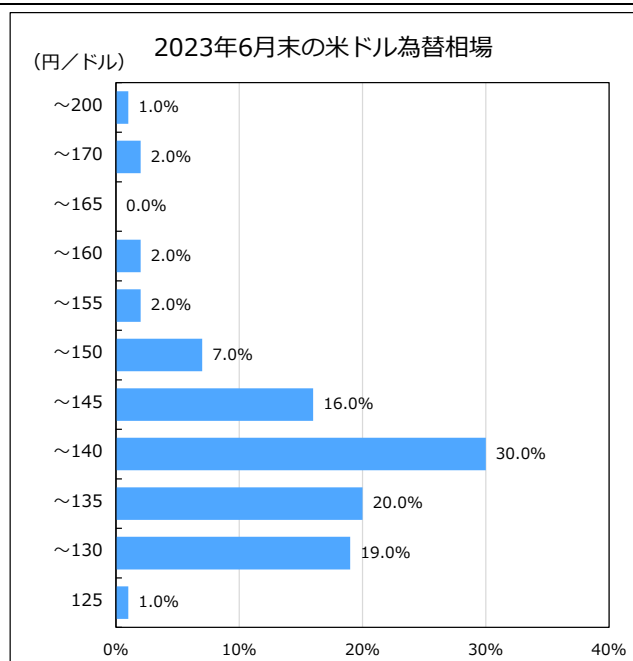
追加調査 2

「2023 年 6 月末の米ドル為替相場・日経平均株価」

2023 年 6 月末の相場予想の平均は、米ドル為替相場は 1 ドル = 139.9 円と、米国利上げペース鈍化に伴う円安の一服を予想。日経平均株価は 28,002 円。県別に見ると岐阜県の平均が 28,335 円と、愛知県の 27,616 円に比べやや強気。

2023 年 6 月末の為替・株式の予想を尋ねたところ、米ドル為替相場の予想平均は 1 ドル = 139.9 円、日経平均株価の予想平均は 28,002 円だった。為替については米国利上げペース鈍化等に伴う円安の一服を予想する意見が多かった。

県別に見ると、米ドル為替相場の予想平均は、愛知県が 137.95 円、岐阜県が 141.59 円と、愛知県は岐阜県に比べやや円高寄りの予想となった。日経平均株価の予想平均は、愛知県が 27,616 円、岐阜県が 28,335 円と、前回調査（愛知県 27,988 円、岐阜県 28,459 年）に続き、岐阜県は愛知県に比べ、やや強気な予想となった。



2023年6月末の米ドル為替相場 (円/ドル)

	全体	愛知	岐阜
平均値	139.92	137.95	141.59
最大値	200.00	158.00	200.00
最小値	125.00	125.00	130.00
最頻値	140.00	135.00	140.00
中央値	140.00	138.00	140.00

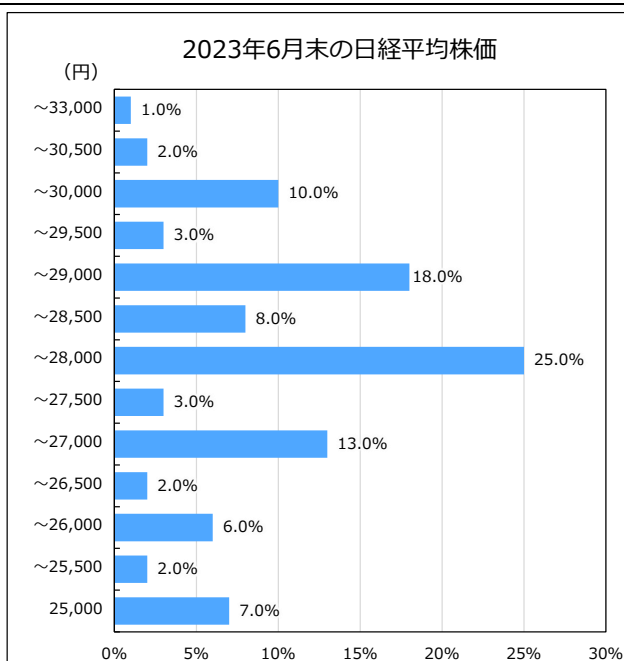
(ご参考)

2022年11月相場 (円/ドル)
月中高値 148.82
月中安値 137.48
月末時点 138.03

出所：Refinitiv

・予想コメント

円安要因 (一部抜粋)
・米国の利上げ継続
・日銀の金融緩和継続
・日米金利差の拡大
・日本経済の低迷
円高要因 (一部抜粋)
・米国利上げペースの鈍化
・米国インフレのピークアウト
・米国の景気後退
・日米金利差の縮小
・日銀の為替介入
・日銀総裁の交代による金融政策の転換



2023年6月末の日経平均株価 (円)

	全体	愛知	岐阜
平均値	28,002	27,616	28,335
最大値	33,000	30,000	33,000
最小値	25,000	25,000	25,000
最頻値	28,000	28,000	29,000
中央値	28,000	28,000	28,500

(ご参考)

2022年11月相場 (円)
月中高値 28,502.29
月中安値 27,032.02
月末時点 27,968.99

出所：Refinitiv

・予想コメント

上昇要因 (一部抜粋)
・輸出企業を中心とした企業業績の底堅さ
・新型コロナの各種規制の緩和による個人消費の増加
・日銀の金融緩和継続
・インバウンド需要への期待
・米国インフレ鎮静化による過度な利上げや景気後退懸念の和らぎ
下落要因 (一部抜粋)
・世界的な資材不足や電力不足
・コロナやウクライナ問題等不透明な世界情勢
・エネルギーや原材料費の高止まりによる減収企業の増加
・米国を中心とした先進国経済の減速
・国内景気の減速

以上